

研究計画書

ゼミ名	林健太ゼミ	チーム名	卒業見込
タイトル	AI と人間の創作物に対する価値観の比較		
テーマ群	e) 産業・企業		
メンバー	加本航輝、中田梨緒、大黒勇輝、江崎鴻一郎、新田大陽、石井竜真		
研究計画内容	【研究背景】 近年、生成 AI の発展により絵画・音楽・小説など、従来は人間が創造することが中心であった分野においても、AI を使うことで高品質な創作物を容易に生み出せるようになった。これにより創作の在り方は多様化し、芸術や文学における「価値」が揺らいでいる。一方で、人々が AI の創作物と人間の創作物をどのように比較し、どちらにより高い価値を見出すのかは十分に明らかにされていない。本研究では、AI と人間の創作物を比較し、その経済的価値の認識差を明らかにすることを目的とする。 【研究内容】 本研究では、AI と人間による複数の創作物を提示して、作品への支払意思額を回答してもらうアンケート調査を行う。得られた支払意思額を比較・分析し、AI による創作物が人間の創作物と比べてどのような価値を持つのかを考察する。先行研究では、AI が生成した創作物は「人間が作った」とラベル付けされた場合に、より高く評価される (Bellaiche et al. (2023)) ことが示されており、評価の背景には知覚的バイアス (AI＝価値が低いという固定観念) が関係している可能性がある。一方、酒井他 (2024) の先行研究によると、人間が作成した創作物と AI を用いて生成された創作物による絵画の評価の違いはほとんど見られなかった。本研究では、先行研究以降に価値観がどのように変化しているのかについて検証する。 【期待される効果】 本研究を通じて、AI と人間の創作物に対する人々の価値認識の違いを定量的に示すことができると考えられる。支払意思額という経済的指標を用いることで、創作物に対する感性的価値を数値的に把握し、AI の創作活動が市場においてどのように受容されているかを明らかにする。また、AI 時代における「人間の創造性」の意義を再確認し、今後の文化・産業・社会における創作の在り方を考える契機としたい。 【参考文献】 酒井雄作, 古川礼奈, 岩沢俊太朗, 須藤修 (2024), 「人間と AI のアートに対する主観的評価分析」、『社会情報学会大会研究発表論文集』、16～21 ページ。 Bellaiche et al. (2023), “Humans versus AI: whether and why we prefer human-created compared to AI-created artwork”, <i>Cognitive Research: Principles and Implications</i>, 8(99), pp. 6-8.		